



関東で初となる快挙

4/1 土地改良事業で全国表彰

三郷でリンゴを栽培している農業生産法人・安曇野ファミリー農産（中村隆宣代表）が、平成 21 年度土地改良事業地区営農推進優良事例表彰で、最高賞となる農林水産大臣賞を受賞しました。また、同表彰で長野県中信平左岸土地改良区が金章を、安曇野有明土地改良区が銀章を受賞しました。このうち大臣賞は 1 都 9 県の関東農政局管内で初の受賞という快挙。新規就農者の育成に尽力してきた中村さんは、「リンゴ栽培に適したこの地だからこそ、人を育てたいと思った。研修生とともに農業を守っていききたい」と語りました。



アサガオで温暖化対策

4/26 くるりん講座で市民活動紹介

4 月のくるりん広場講座「緑のカーテン広げよう（NPO 法人あづみ野風土舎主催）」が 4 月 26 日、市民活動センター・くるりん広場で開かれました。講座には 100 人が参加。温暖化対策にもつながるというアサガオの日よけの作り方などを学びました。参加者の武重孔二さん（穂高）は、「冷房効果もあり、鑑賞以外にも楽しめそう。難しそうだがチャレンジしたい」と意欲を話しました。くるりん講座は月 1 回開かれ、登録団体の多彩な活動を広く紹介しています。

没後100年 偉業をしのんで

4/22 碌山美術館で「第 100 回碌山忌」

明治期の彫刻家、荻原守衛（碌山）の 100 回忌にあたる 4 月 22 日、碌山忌（財団法人・碌山美術館主催）が同美術館で営まれました。

1879 年、旧・南安曇郡東穂高村に生まれた碌山は、欧米への留学後、国の重要文化財となる「女」、「北條虎吉像」などを制作。その先駆的な作品は、日本近代彫刻の扉を開いたと言われていています。そして 1910 年、満 30 歳という若さで、同じく郷土の出身者である相馬愛蔵が経営する新宿中村屋において逝去しました。

碌山忌となる 22 日には約 200 人が来館。記念コンサートや同館の研究発表が行われました。また 25 日には、研究者などを招いたシンポジウムが開かれ、碌山が残した偉業をしのびました。

記念事業は年間を通じて企画されており、7 月 24 日から「新宿中村屋サロンの芸術家たち」展が開かれる予定です。



旧篠ノ井線 三五山トンネルが復活

4/1 明科潮沢・廃線敷コースがさらに充実

旧国鉄篠ノ井線の廃線敷にある三五山トンネルがこのたび、散策路として再び開通しました。

三五山トンネルの長さは約 125 メートル。半径 300 メートルのカーブ中にあり、内部は当時の明科地域で作られたレンガが使われています。また、市が新たに設置した人感センサー付きの電灯は、近づくると点灯し、懐中電灯を持参することなく、内部の雰囲気を楽しむことができます。

この散策路は、地元有志によるボランティアが中心となり整備したもので、コースの途中には全国でも稀にみる規模のケヤキ林があります。市観光協会は、「旧第 2 白坂トンネル駐車場からスタートする約 6 キロのコースがおすすめ。ゴール付近にある三五山トンネルを抜けると、北アルプスの山並みが目前に広がります」と話しています。6 月 27 日には、あやめまつり深緑記念ウォーキングが開かれる予定です。詳しくは同協会（☎82・3133）まで。



三五山トンネルを抜けると北アルプスの山並みが目前に広がります。



新社会人 決意を新たに

4/15 新規学卒就職者歓迎会

市と市商工会は 4 月 15 日、新規学卒就職者歓迎会を安曇野スイス村サンモリッツで開きました。本年度は市内 30 社に 60 人が入社。歓迎会には真新しいスーツ姿の新入職員 42 人が参加し、決意を新たにしました。市内の金融機関に就職した曾根原晃久さんは、あいさつの中で「会社だけでなく、地域のためにも貢献できるようがんばりたい」と決意を述べました。また、式の後には市内企業の人事担当者による「プロとしての職業人の心構え」と題した講演が行われ、参加者は、メモを取るなどして熱心に耳を傾けていました。



山の恵みを親子で体験

4/24 シイタケの駒打ち

市内在住の親子 20 組が 4 月 24 日、堀金烏川の市有地でナラの原木にシイタケの菌を打ち付ける「駒打ち」を体験しました。この企画は山に関心を持ってもらおうと、市が初めて開いたものです。参加者は約 1 時間に切りそろえた 100 本の原木にドリルで穴を開け、シイタケの菌を打ち込みました。シイタケが好物という等々力咲希ちゃん（2）は、両親の見守る中、楽しそうに木づちを振るっていました。収穫は来年の秋になる見込みです。